２０２２年度
通 常 総 会 資 料

日　時：2022 年 5 月 21 日（土）
15：00～17：00
会　場：オンライン

■　次　第

１．　開会の辞

２．　議長・書記・議事録署名人の選出

３．　議題

第 1 号議案
2021 年度事業報告及び決算報告承認の件
1）2021 年度事業報告について
2）2021 年度決算報告について
3）2021 年度事業及び決算の監査結果について

第 2 号議案
2022 年度事業計画及び予算の承認の件
1）2022 年度事業計画について
2）2022 年度予算について

その他

４．　閉会の辞

３１１当事者ネットワーク ヒラエス

第１号議案　2021 年度　事業報告及び決算報告について

１）2021 年度　事業報告について

２０２１年４月１日から２０２２年３月３１日まで

（１）　事業の成果

ヒラエスの 2021 年度事業計画である３つの柱＝①『つながる』ネットワーク事業（全国の支援団体をつなぐ場づくり）（当事者性をもった安全な語り合いの場づくり）②『まなぶ』セミナー事業（当事者・支援者が共に学び合う場づくり）③『つたえる』フォーラム事業（経験をちからへと転化するために伝える場づくり）を基に事業を実施した。

今年度は、各地の支援団体と地域資源、特に支援機関（行政、社協など）との連携の困難さを解消するために、冊子や 2020 年度事業で可視化した「避難当事者」の本音をもとに、具体的な連携方法について会員や支援団体、関心がある方々と共に発案・共有することで、各団体が各々の地域資源と連携を強化していけるようなサポートをしていくことを目的に事業を展開した。また、見えにくい潜在化している本音（困りごとなど）は普遍的ですが、顕在化している問題は社会情勢によって変化します。避難当事者も含めた支援者とのゆるやかなコミュニティ構築により、当事者の声や支援団体の声を受け止めつつ、次のアクションを支援団体同士で検討する場や、個人で考えたりするきっかけを作ることができたのではないかと 1 年を振り返り思っている。

①　つながる：全国の支援団体をつなぐ場づくり　～ネットワーク事業～

オンラインでの開催とし、山浦先生の助言をいただきながら、甲田先生を講師に招き、事業内容を組み立てていった。質的統合法(KJ 法)により可視化した広域避難当事者の体験と心の内側の図の基となった 216 の生の声を、心理学面から分析と考察を加え、被災・避難当事者について自分以外の誰かに分かりやすく伝える手法を解いた。全体ワークとテーマ別のグループワークの場を設け、支援団体同士がディスカッションを重ね、最終タイトルを「人のこころを支えるということ-理解することと支援することに焦点を当てて-」として開催した。広域避難者支援団体、支援機関と共に、新たな支援を考える場となった。

②　つながる：当事者性をもった安全な語り合いの場づくり　～ワークショップ事業～～

●会員拡充

今年度開催したネットワーク会議等の活動を通し、前年度に比べて会員が 8 団体（人）増加した。活動を通してヒラエスへの興味を抱いてもらい、ヒラエス会員メリットを明確に理解してもらうことを目的に会員プログラムのチラシを制作し配布した。

●ヒラエスミーティング・ヒラエスサロンの実施

全国の広域避難者支援を支える全国の団体とオンラインにて対話、情報共有と交流を目的とし、正会員のみを対象とするヒラエスミーティング、対象者を設けないヒラエスサロンを毎月 1 回程度、オンラインにて実施した。オンラインの特性を活かし、全国の支援者が一堂に会する機会がとりやすい形となった。他団体との交流が減少してきている中で、それぞれ語り合い、交流することで全国の支援状況の相談、把握も理解しやすかった。誰が何処でどのような活動しているのかなど、面識をもつ場となり、ネットワーク強化にもつながって行くと思う。

③　まなぶ：当事者・支援者が共に学び合う場づくり　～セミナー事業～

会員向けセミナー、研究事業は、実施できなかったが、講師派遣事業として、2 回依頼があり、広域避難当事者の現状や支援内容などを話す機会があった。

④　つたえる：経験をちからへと転化するために伝える場づくり　～フォーラム事業～

被災者、避難者への理解をより深めるために、私たち一人ひとりが「災害」を自分ごととして捉える観点のシンポジウムから、311 当事者の体験を朗読や　歌、踊り（フラ）で語り継ぐ「表現者」の方々にご出演いただき、皆さまと共に心震わす瞬間を共有し、専門家の講話も織り交ぜフォーラムとして開催した。

広域避難者支援における社会課題と具体的な課題解決について、さまざまなセクターやこの国に住まう多くの人たちが「自分ごと」として捉える必要がある。そのためには、情報として頭で捉えるだけでなく、心を動かす必要がある。今回のフォーラムでは心を動かすという点に着目し、情報伝達でなく、朗読・歌・踊りを通して語ることによって参加者の感情へダイレクトに訴える仕掛けを盛り込んだ。

⑤　IT 環境整備事業

ウェブサイトリニューアルは、昨年度実施できなかった事業を延長し実施した事業である。

本事業は、IT 環境を整備し広域避難者支援団体のネットワークを維持・継続・発展をすることと、当団体のサイトを通じて、311 による「広域避難当事者の実態」や「支援の重要性」を広く周知し、理解を深め、協力を促すことを目的に展開した。

（２）　事業の課題

①　つながる：全国の支援団体をつなぐ場づくり　～ネットワーク事業～

参加者のアンケートより、とにかくみんなで集まって、支援方法やこれからの活動のことを話し合い、よりよい支援を目指したいという声があった。リアルな集まりを求めているのだと再確認できた。また、広域避難者支援への対応が難しく、支援方法に悩んでいる団体や中長期ビジョンが描きづらいなど課題を持っている団体が存在していることが分かったので、このような機会を途絶えることなく続けていくことがヒラエスの役割の１つであることが事業を通して見えてきた。

②　つながる：当事者性をもった安全な語り合いの場づくり　～ワークショップ事業～～

●会員拡充

過去のタケダ赤い羽根の助成受託団体すべてに事業に参画してもらうところまでは至らなかった。会員プログラムのチラシを作ったが、それを活用した会員獲得への動きは十分でなかったように思う。

●ヒラエスミーティング・ヒラエスサロンの実施

会員の人数がまだ少ないため、ミーティングやサロンの参加者が少ないという現状である。

③　まなぶ：当事者・支援者が共に学び合う場づくり　～セミナー事業～

セミナーと研究事業を当初計画にあげていたが、できなかった。できなかった理由として、予算面が大きいが、工夫次第で実施できた可能性もあるのではないかと事業計画通りに遂行できなかったことを反省している。

④　つたえる：経験をちからへと転化するために伝える場づくり　～フォーラム事業～

本来なら対面で分かち合うことが、311　に携わる支援団体・支援者・当事者が一致団結して、課題に取り組み、前に進む力を得るには重要と考えている。集う中で時間を共有、共感することができていたら、より実のある形として伝わったのではないかと参加

者からのコメントを見ても正直、悔しさが残る。災害や広域避難によるコミュニティの喪失は重大であり、さまざまな課題へとつながっている。だからこそ今後もヒラエスではコミュニティ事業を通して全国規模でのつながりを継続していきたい。

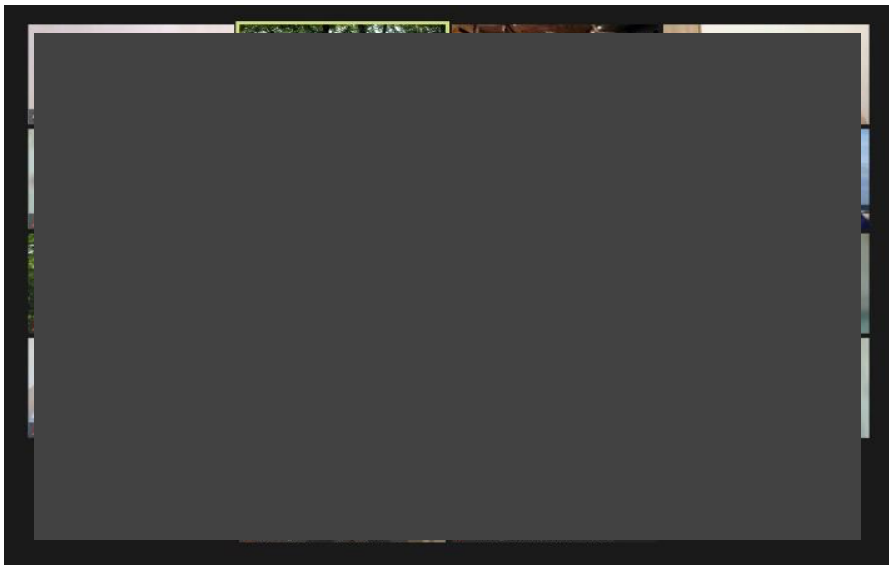
⑤ IT 環境整備事業

スタッフ間の役割分担がうまく機能せず、素材を集めることや、文章を考えることに時間がかかり、業務負担が偏ってしまった点が見られた。

（３） 事業の実施に関する事項

① つながる：全国の支援団体をつなぐ場づくり ～ネットワーク事業～

■事業名：ヒラエス広域避難者支援ネットワーク会議 2021
～避難当事者を最後まで支援するために～
■開催日：2021 年 10 月 23 日（土） 13:00～16:30
※Zoom をつかったオンライン開催
参加費：会員 1,000 円 非会員 5,000 円(学生料金:1,000 円)
＜プログラム内容＞
・講話講師／甲田宗良
「人のこころを支えるということ-理解することと支援することに焦点を当てて-」
質的統合法(KJ 法)により可視化した広域避難当事者の体験と心の内側の図の基となった 216 の生の声を、今回は心理学面から分析と考察を加え、被災・避難当事者について自分以外の誰かに分かりやすく伝える手法を解いた。
・全体ワーク：現在、各団体が工夫している支援内容の発表
現在行なっている支援や工夫している内容を各団体がスライドを用いて発表しあった。
・グループワーク～テーマ別座談会～
各支援団体が進めている支援のポイントや課題について情報交換を行い、
創意工夫のアイデアを分かちあった。
＜参加人数：計 22 名＞
ネットワーク会議参加人数:15 名
(海外を含め全国の支援者や支援団体、研究者が参加)
ネットワーク会議運営スタッフ：7 名



② つながる：当事者性をもった安全な語り合いの場づくり ～ワークショップ事業～

●会員拡充

タケダ・赤い羽根広域避難者プログラムを過去に受託した団体や広域避難者支援に興味のある団体、個人等へ事業への参加を促し、積極的に呼びかけた。会員メリットをわかりやすく伝えるため会員プログラムチラシを制作し、会員勧誘時やネットワーク会議等のイベント開催時に配布した。イベント時の最後には、会員募集の告知をし、会員募集をアピールした。

●ヒラエスミーティング・ヒラエスサロンの実施

コロナ禍ですべての事業をオンラインで開催した。ウェブ会議の環境も整い、操作等にも慣れトラブルが減った。開催詳細は会員らへのメールや SNS・HP 等を使用して告知し、参加申し込みは、グーグルフォームを利用し、参加者が申し込みしやすく、かつ運営側が管理しやすい形で行なった。

交流会では、ヒラエスの HP の活用を各団体に促し、主に全国の避難者が各地域で活動（店舗経営）など頑張っていることを共有・紹介したり、各団体の運営状況やコロナ禍における各地域の避難者の状況や支援状況についても全国の団体で情報交換し共有した。さらに、3/26 に急遽開催したオンラインサロンでは、3/16 に発生した東北沖の地震による現地の被害状況を共有しあい、311 以降も繰り返される災害による心的リスクについて改めて課題を再認識することができた貴重な時間となった。重ねてこのような全国規模のオンラインサロンの重要性を感じた。

③ まなぶ：当事者・支援者が共に学び合う場づくり ～セミナー事業～

『Voice from 3.11～わたしたちの思いと願い～』というイベントに登壇する機会をいただいた。3.11 から 10 年が経過し、避難当事者それぞれのことばに耳を傾けることで、3.11 という事象について広く知って頂く機会に、そしてその経験と教訓を未来へとつなげ、一人ひとりの復興に向けた取り組みの中で、被災された方や避難を余儀なくされた方、その人々を支える支援者、私たちが経験して気がついたことや大切にしてきた「それぞれの言葉」を広く伝えていくと共にアーカイブ化を図るという内容であった。そのイベントの中で、避難当事者として、集まった言葉への感想や自分の体験、支援者としての葛藤などを話させていただきました。

④ つたえる：経験をちからへと転化するために伝える場づくり ～フォーラム事業～

■事業名：ヒラエスフォーラム 2022『語りのかたち～心震わす体験から生まれる力～』

■開催日：2022 年 2 月 27 日（日）13:00～16:00

※Zoom をつかったオンラインで無料開催

▪告知動画：下記 URL 参照

https://www.youtube.com/watch?v=5r-3tTy6JQI

＜プログラム内容＞
１）詩の朗読による表現：井上 美和子さん（福島県南相馬市→京都へ避難）
２）歌による表現：森 加奈恵さん（宮城県亘理町にて被災）
３）甲田 宗良氏による理論講話「ひとの語りを聴くということ－心理学の立場から－」
４）質疑応答
５）フラによる表現：大貫 佑美さん（福島県いわき市→沖縄へ避難）
＜参加人数：計 53 名＞
フォーラム参加人数:44 名(海外を含め全国の支援者や支援団体、研究者、被災・避難当事者、一般が参加)
フォーラム運営スタッフ・出演者：9 名
＜内容・結果＞
参加者から 311 に対する関心と応援を得て、新規にヒラエス会員が 7 名増加した。
広報の力が弱い点については SNS を活用、チラシだけでなく動画で期待感を醸成した。また、自分ごととして捉えてもらうことについては、これまでと手法を変え、朗読、歌、踊りなどさまざまな伝え方によって幅を持たせ共感を深める工夫をした。さらに理論講話を同時に聞くことで支援者からは説得性が増したという感想も寄せられた。課題の共通認識の表現・共有については、課題の共通認識をどのように表すか、共有するかなどの方法については今後も継続して検討を続けていこうと思う。

⑤ IT 環境整備事業
・大幅なウェブサイトリニューアルを実施した。以下が詳細
対象サイト：311 当事者ネットワーク HIRAETH（ヒラエス） https://hiraeth.work/
リニューアルポイント① サイト全体のデザイン変更
・トップページや要所にイラストを用い、優しい雰囲気で読みやすいサイトデザインを心がけ刷新した。
・トップのメッセージはアクセスすると真っ白な画面にまずメッセージが浮かび上がり、イラストがフェードインしてくる仕様とした。このメッセージとイラストは「当事者が失った居場所を取り戻し回復に向かっていく姿」を表している。この姿やメッセージに共感を持つことで当事者にも支援者にも関わろうとする気持ちを煽る仕掛けとした。

リニューアルポイント② ヒラエスの支援者拡大のためのコンテンツを作成
●311 を知るためのコンテンツを新規作成
・理解者や支援者拡大へつなげるため、311 被害の実態や概要を学べる「311 で起きたこと」「311 年表」「体験者生の声」のページを作成した。
・昨年度制作した冊子『「言葉のかけら」が語る未来』とともに会員やその他支援者に活用してもらえる作りとした。
●「応援したい」コンテンツを新規作成
・個人、企業、研究者等からの寄付・支援協力に関することを記載。寄付決済サービス等を活用することで決済までの手順を簡略化し、寄付や会費決済をしやすい環境を整えた。
・金銭の寄付だけでなく、場所・機器・設備・物資の提供、提言等のための研究協力、会員になるなど応援の方法や種類を具体化し、選択の幅を設け応援を促す作りとした。
●お問い合わせフォームの充実
・講師派遣問い合わせ、支援協力問い合わせ等、当団体に興味を抱いた人を取りこぼさないよう関連コンテンツ内に直接入力できるフォームを設置するなど仕掛けを盛り込んだ。

リニューアルポイント③ 会員サポートの充実

●会員限定コンテンツの作成

・限定コンテンツとして「支援に必要な情報リンク集」「専用掲示板」「セミナー動画視聴」「資料共有ページ」等を新規作成。また「ぶるぶるヒラエス」に掲載した方の震災前～これまでのストーリーが読める「ぶるぶるヒラエス完全版」も会員限定公開とした。会員メリットを明確にすることで会員増加も見込まれ、ネットワークの維持・継続・発展へつながっていくと考える。

●会員メリットの明確化＆会員一覧を新規作成

ネットワークの発展のためにも新規会員獲得を目指し、会員申し込みページにはサイト内を中心とした会員種別ごとのメリット一覧を追記。また、ヒラエス会員一覧を設けることで、どのような団体や個人が会員となっているのかがわかるのと同時に全国ネットワークを視覚的に演出し新規会員獲得への仕掛けを作った。

リニューアルポイント④ コミュニティづくりのための仕掛け

●「遊ぶ・食べる・学ぶ・見る」ぶるぶるヒラエス作成

・避難先でお店や活動を始めた人を紹介するコンテンツを新規追加した。ヒラエス会員にも協力をいただきこの先掲載店舗を増やしていく予定。コロナ禍が明けたら、311 という同じ経験をした人が遠くの地で始めたお店や活動を旅行がてら訪問したり、交流することでコミュニティ作りの一助となるコンテンツを目指す。

●会員限定掲示板

facebook

・フェイスブックのプライベートグループ機能を活用し正会員・賛助会員専用掲示板とメンバー会員専用掲示板を作成。希望する会員を招待し非公開の状態でコミュニケーションがとれる場を作った。サイト内からもそのグループページに飛べるように設定した。

リニューアルポイント⑤ 外部サービスの活用でランニングコストを削減

＜リニューアルにともない活用する外部サービス＞

●会費・寄付等の決済：**Syncable（シンカブル）**

・登録と維持費が無料。非営利団体のみ登録可能で、現状でのヒラエスの会則では表記不足があった。その為、臨時総会を経て（11 月）改訂し再提出にて受理され登録完了となった。

https://syncable.biz/associate/311HIRAETH/

●イベントチケットの告知・販売等の決済：**Peatix（ピーティックス）**

・登録と維持費が無料。ヒラエスのページを作成した。これによりイベントの際に専用のページを作ることができ、URL を貼ることで SNS 等で広く周知、イベント参加費の決済をすることが可能となった。

https://hiraeth.peatix.com/

●アクセス解析等：**Google アナリティクス**

・アクセス数、ページ閲覧、滞在時間などリアルタイムで情報を取得するために搭載。サイト運営のためにアクセス解析を行う仕組みを導入した。

※最大データ保持期限は 14 か月を想定。（プライバシーポリシーに記載済）

以上を中心としたリニューアルを行い、2021 年 11 月 30 日にプレ公開をして本番サイトで確認、2021 年 12 月 1 日には正式公開した。正式公開日に、SNS や会員宛のメールにて周知。各会員宛にも個別のログイン ID とパスワードを送付した。

＜活動の成果＞

デザインを含め全体的なリニューアルを行い、視覚的にも、内容的にも充実し、PC だけではなくスマホ等の端末でも見やすいサイトへとリニューアルできた。

トップページにはメッセージ（＝ヒラエスの理念）をより共感性を持って受け止めてもらう仕掛けとしてメッセージやイラストをフェードインさせるなど動きを持たせてサイトに訪れる当事者や支援者に感覚的に伝える手法を取った。共感性を持ってもらうことでヒラエスの活動に興味を抱く人、参画する人を増やし、ヒラエスのネットワークや活動の発展へつなげていけるトップページの作りとなった。

新規に追加したコンテンツの中で、特に当事者団体であるヒラエスならではの視点で作り上げた 311 を知るコンテンツは、311 を知らない世代へ伝えるだけでなく、当事者や支援者がいつでも見返すことができる内容となったように思う。公的な年表にある出来事だけでなく、当事者として忘れてはならない、忘れたくはない出来事も盛り込んでおり、当事者が当時の事象や体験を思い出し、立ち戻ったり共感しながら閲覧してもらえるコンテンツとなった。

また、今回のサイトリニューアルでは、一方的な情報発信だけでなく情報交換ができるコミュニティ作りの場としての役割も目指し、「ぶるぶるヒラエス」や「会員限定掲示板」など交流のきっかけとなる仕掛けを意図的に盛り込んだ。メンバー会員（当事者）が「311 の経験をした者同士」というつながりで交流できる場としても今後これらのコンテンツは優先的に盛り上げて行きコミュニティ形成を目指していく。

さらに、タケダ赤い羽根等の助成金事業がなくなり、かつコロナ禍もあって、支援者同士が対面で交流し情報交換を交わせる場が減る中で、情報交換や交流ができる場所の提供は会員からも要望の声が上がっていたので、支援者のサポートという面からも掲示板等の交流スペースを導入できたのはよかったと思う。さらに、311 から 10 年が経ち、直接避難者の声や体験者の声が聞きにくくなる中で、「生の声」や「ぶるぶるヒラエス」のストーリーは支援者が 311 の体験者を理解しサポートするための一助となっていくと考える。

今回のリニューアルでは、外部サービス（シンカブル、ピーティックス）などの無料のツールを導入し、金銭的な負担なく会費や参加費のオンライン決済やイベントの広い周知も容易となった。無料サービスを活用したウェブ制作の事例を作ることは、ヒラエス会員をはじめとする各地の広域避難者支援団体が同サービスを導入する際にヒラエスがレクチャーすることも可能となるため、多くの団体が導入、活用しやすくなり、各団体の運営維持・継続の一助へと繋がると考える。

＜今後の活動方針（実施した事業をどのように発展・維持させるか）＞

本サイトをベースに、活動を維持・発展させていくためにも、SNS も利用したイベント告知、クラウドファンディングなど財源の確保を行いながら、コンテンツの更新・配信をする。定期的なリンク切れのチェックや情報更新などウェブサイトの管理についてはマニュアルを作成し、運営内で役割分担をしながらサイト管理を継続して行っていく。

同時に、上記にも記載したが、コンテンツや会員サービスをコミュニティ形成のためのツールとしても用い、交流できる場所として、情報交換できる場所としてヒラエスが意識的に場作りをする。会員同士の交流を深め、ヒラエスに関わる人を増やしていくことを目指す。関わる人が増えていくことで、ヒラエスのネットワークの構築・強化、コミュニティの形成へと繋がっていくと考えている。

２）2021 年度　決算報告について

（法第 28 条第 1 項関係「前事業年度の財産目録」）

2021 年度　財産目録

2022 年 3 月 3 1 日現在

３１１当事者ネットワーク ヒラエス

科　目　・　摘　要	金　額　（単位：円）		
Ⅰ　資産の部			
1　流動資産			
現金預金			
現金（現金手許有高）	0		
普通預金（ゆうちょ銀行）	1,342,632		
未収金	0		
流動資産合計		1,342,632	
2　固定資産			
備品	0		
敷金	0		
歴史的資料	0		
固定資産合計		0	
資産合計			1,342,632
Ⅱ　負債の部			
1　流動負債			
短期借入金	0		
未払金	199,679		
預り金	0		
前受金（会費）	6,000		
流動負債合計		205,679	
2　固定負債			
長期借入金	0		
固定負債合計		0	
負債合計			205,679
正味財産			1,136,953

（法第 28 条第 1 項関係「前事業年度の貸借対照表」）

2021 年度　会計貸借対照表

2022 年 3 月 3 1 日現在

３１１当事者ネットワーク ヒラエス

科　目	金　額　（単位：円）		
Ⅰ　資産の部			
1　流動資産			
現金(現金手許有高)	0		
普通預金（ゆうちょ銀行）	1,342,632		
仮払金	0		
未収金	0		
流動資産合計		1,342,632	
2　固定資産			
什器	0		
備品	0		
敷金	0		
固定資産合計		0	
資産合計			1,342,632
Ⅱ　負債の部			
1　流動負債			
短期借入金	0		
未払金	199,679		
預り金	0		
前受金（会費）	6,000		
流動負債合計		205,679	
2　固定負債			
長期借入金	0		
固定負債合計		0	
負債合計			205,679
Ⅲ　正味財産の部			
前期繰越正味財産		4,985,545	
当期正味財産増減額		▲3,848,592	
正味財産合計			1,136,953
負債及び正味財産合計			1,342,632

（備考）

1　用紙の大きさは、日本工業規格Ａ列４番とする。

2　前事業年度の末日現在における資産、負債及び財産を記載する。

（法第 28 条第 1 項「前事業年度の活動計算書」）

2021年度　活動計算書

2021年４月１日から2022年３月３１日まで

３11当事者ネットワーク ヒラエス

科　　目	金　　額　（単位：円）		
経常収益			
1　受取会費			
正会員個人（3000円×11名）	33,000		
正会員団体（3000円×9団体）	27,000		
賛助会員個人（3000円×10名）	30,000		
賛助会員団体（10000円×2団体）	20,000	110,000	
2　受取寄附金			
受取寄附金	50,000	50,000	
3　受取助成金等			
タケダ・いのちとくらし再生プログラム自主連携	1,220,000		
ラッシュジャパン助成金	288,000		
受取助成金返金分	▲3,776,936	▲2,268,936	
4　事業収益			
事業参加費	21,000		
その他目的を達成するために必要な事業	25,000	46,000	
5　その他収益			
受取利息	37		
雑収益	0		
経常収益計		37	▲2,062,899
Ⅱ　経常費用			
1　事業費			
(1)人件費			
給料手当	667,000		
交通費	0		
人件費計	667,000		

(2)その他経費			
会議費	110,000		
旅費交通費（スタッフ）	0		
旅費交通費（ゲスト）	0		
謝金	50,000		
業務委託費	870,000		
印刷費	0		
消耗品費	14,195		
備品	0		
通信費	74,498		
その他目的を達成するために必要な経費	0		
一般管理費	0		
その他経費計	1,118,693		
事業費計		1,785,693	
2　管理費			
(1)人件費			
役員報酬			
人件費計	0		
(2)その他経費			
会議費			
その他経費計	0		
管理費計		0	
経常費用計			1,785,693
当期経常増減額			▲3,848,592
Ⅲ　経常外収益			
1　固定資産売却益			
経常外収益計		0	
Ⅳ　経常外費用			
1　過年度損益修正損			
経常外費用計		0	
当期正味財産増減額			▲3,848,592
前期正味財産額			4,985,545
次期繰越正味財産額			1,136,953

（備考）１　用紙の大きさは、日本工業規格Ａ列４番とする。

【金額内訳書】

未払金　合計　199,679 円

＜内訳＞12 月～3 月　長尾　人件費　197,000 円　3 月分　携帯電話代 2,679 円

前受金　合計　6,000 円

＜内訳＞２０２２年度　賛助会員会費　（森加奈恵）　3,000 円　（鏑木正彦）　3,000 円

監査報告書

2022年 4月 27 日

３１１当事者ネットワーク　ヒラエス
共同代表　市村　高志　様
　　桜井　野亜　様
　　澤上　幸子　様
　　服部　育代　様
　　藤本　昭則　様

私は３１１当事者ネットワークヒラエス（以下、ヒラエス）の ~~2020~~ 2021 年度（2021年4月1日から2022年3月31日まで）の事業報告書及び計算書類について監査を行った。

・監査意見

(1) 活動計算書は正しく示しているものと認める。

(2) 事業報告書の内容は真実であると認める。

(3) 理事の業務執行に関する不正の行為又は法令もしくは会則に違反する重大な事実はないと認める。

監事 長濱 正

以上

第２号議案　2022 年度　事業計画及び予算について

１）2022 年度事業計画について

2022 年４月１日から 2023 年３月３１日まで

１．事業計画

以下の２つの助成金（ⒶYahoo!基金　2022年度被災地復興調査助成金　Ⓑラッシュチャリティポット復興支援活動助成金）を応募し、ヒラエスの事業の３つの柱である①『つながる』ネットワーク事業（全国の支援団体をつなぐ場づくり）、ワークショップ事業（当事者性をもった安全な語り合いの場づくり）②『まなぶ』セミナー事業（当事者・支援者が共に学び合う場づくり）③『つたえる』フォーラム事業（経験をちからへと転化するために伝える場づくり）を基に事業を実施する。

Ⓐ　Yahoo!基金　2022年度被災地復興調査助成金を応募済みである。

Yahoo!基金　2022年度被災地復興調査助成金とは・・・

助成事業の内容は、復興支援活動を行う際の、被災地域や被災者のニーズに関する調査・分析の実施、および、その結果に基づいたパイロット事業に助成をし、災害被害からの復興に役立てるものです。被災地や被災者の復興（被災前の生活に戻る、被災後の生活の環境改善、被災地の活性化など）につながるなどの調査・分析また、それを踏まえたパイロット事業に助成する。

【調査・分析】

復興支援活動を行う地域で実施し、主として被災住民等へのヒアリングやアンケート調査

申請団体が復興支援活動を行う地域の課題や状況を明らかにするなど、復興を促進するために必要と考えられる既存調査の分析　等

【パイロット事業】

調査結果をもとに実現可能な支援を企画・立案するための試行事業

※パイロット事業の結果をもとに2年目の継続を審査・決定します

活動例）

被災地域の産業・交流の活性化、被災地域のコミュニティ形成・再生、近隣地域との防災復興のための連携活動、被災者の自立支援

■申請から決定まで

2022年6月末：1次選考結果連絡　※合否にかかわらず選考結果はメールにて連絡いたします

2022年7月上旬：事前面談

2022年7月中旬：プレゼンテーション研修

2022年8月上～中旬：2次審査会（プレゼンテーション大会）

2022年9月上旬：2次選考結果連絡 ※合否にかかわらず選考結果はメールにて連絡いたします

■応募内容

【調査・分析】

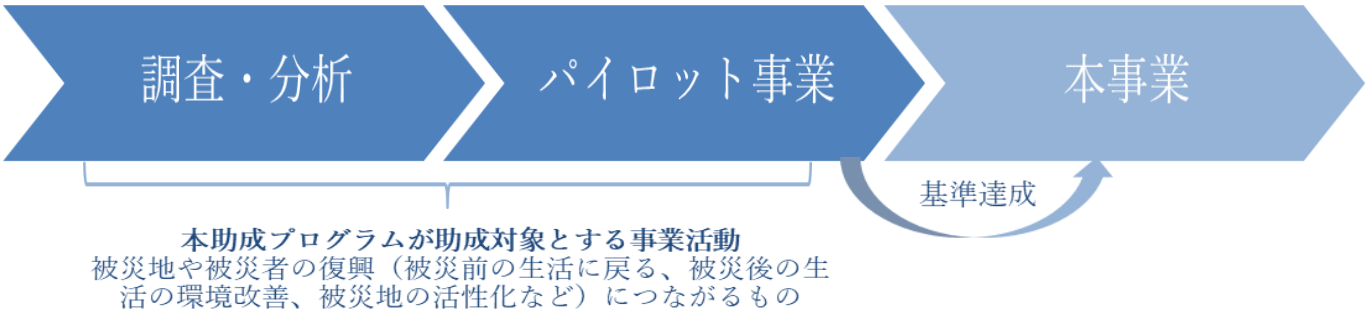
・申請団体が復興支援活動を行う地域で実施する、主として被災住民等へのヒアリングやアンケート調査

・申請団体が復興支援活動を行う地域の課題や状況を明らかにするなど、復興を促進するために必要と考えられる既存調査の分析 等

【パイロット事業】

・調査結果をもとに実現可能な支援を企画・立案するための試行事業

活動例）被災地域の産業・交流の活性化、被災地域のコミュニティ形成・再生、近隣地域との防災復興のための連携活動、被災者の自立支援



実施・分析予定の調査の内容	
調査実施団体	311当事者ネットワーク ヒラエス
調査対象者	311による広域避難当時者で、当団体事業に参加した方や正会員、賛助会員、メンバー会員。
調査対象者数	当団体で実施した事業の参加者及び正会員、賛助会員、メンバー会員を対象：75名。
調査内容・方法	広域避難者が課題の解決に至った経緯を探り、そのきっかけとなった要因を探るものとする。加えて、解決に至っていないと思われる要因を検証する。 方法としては訪問調査法を用いて、専用の設問表を作成し、直接調査対象者と面談して実施する。
調査によって明らかになると想定される課題	東日本大震災から11年が経過し、広域避難が長期化する中で避難者の課題は複雑化・深刻化・個別かつ多様化となり、解決の足掛かりを見失いつつあり、支援策が飽和状態となっている。それらの複雑に絡み合った課題に対し、解決の糸口を探っていくことが必要だと考える。加えて課題を抱える避難者に不足している資源およびリソースを探ることは重要である。本調査では課題解決が可能になった対象者の要因及び解決に至らない課題について調査・分析する。
コロナ禍でも実施するための工夫	原則は対面での実施。感染の恐れがある場合は、オンライン（zoom）にて実施。 ※進化するインターネット技術を取り入れ、リアルタイムな回答とそのデータ化、分析を行う。

＜予定しているパイロット事業 ＞

本調査で浮かび上がった課題を全国の支援団体と共に分析し、豊富な事例を参考にしながら理論化していく作業を行いたい。これまでもネットワーク会議と称し、「支援の本質とは何か？」を議題としながらその答えを模索してきた。その過程で全国の当事者の生の声を基に質的統合法（KJ法）により分析した「広域避難者当事者の体験とこころの内側（本音）（「言葉のかけら」が語る未来～冊子P6～P7参照）を生み出し、それを基に支援に必要な要素を分析し可視化した「被災・避難当事者支援の考察結果」（「言葉のかけら」が語る未来～冊子P9参照）を得ることはできたが、それはまだまだ俯瞰的で概略的なものであり、実践活用までには至らなかった。よって、今回の調査では現場で活用可能な理論を構築し、その理論をいくつかの支援現場で実践し、その成果や課題を共有して発展していくようなステップアップ事業としていきたい。※資料「言葉のかけら」が語る未来を参照

＜本事業実施を決定するために必要なパイロット事業の達成基準＞

本事業の達成基準は、当事者の声を対象とした調査から「人間の回復への支援アプローチを導く事」が第一関門となる。まず、この調査において回答数目標を当団体の過去の事業で広域避難当事者が関わっている人数の総数（248名）30%としたい。さらに、その回答を「分析」する第二関門では、全国から支援者、支援団体、専門家、有識者などを集め、多くの意見を基に分析を行いたいと考える。

そして、パイロット事業となる「支援アプローチの理論を活用した支援の実施」においては、実践した連携団体の事業報告から、被災・避難を起点とした複雑化・深刻化・個別かつ多様化した課題に対する支援内容や状況変化などを多くの支援団体と共有し、課題を抱える対象者の変化をトリアージなどを用いて具体的に捉え、新たな支援アプローチの体系化することを達成目標とする。

＜パイロット事業後に想定する本事業の計画＞

本パイロット事業の結果を一般の社会問題の課題解決へと発展させることが可能であるのではと期待する。

本パイロット事業の対象は「被災者・避難者」であるが、調査から導き出す「人間の復興（回復）への支援アプローチ」は誰にも起こりうる人生の転機や危機に対し、解決が困難になった一般の社会問題のケースにも対応できると考える。

社会福祉の現場では引きこもりや孤立、生活困窮、ごみ屋敷、虐待、5080問題、支援拒否など様々な課題が解決困難とされているが、そのどれもが被災者・避難者支援の現場でも困難事例としてあげられている。

広域避難当事者が対象であるマイノリティ支援の現場だからこそ分析が可能となる環境を最大限に活かし、この取り組みを現在困難さを抱えるさまざまなケースに対応できるように発展させることで、一般社会問題の困難事例をも解決する一助となる。

よって、本パイロット事業後に想定する事業の計画としては、今後想定される巨大災害による広域避難者支援の対応策だけでなく、一般社会問題の困難事例を解決に導くプラットホーム事業として発展するよう目指す。

日程	実施内容
2022年10月	スケジュールを立てる、訪問調査のヒアリング設問票作成、第1回ネットワーク会議の準備・周知
2022年11月	全国支援団体による第1回ネットワーク会議（外部サービス：ZOOM） ※学びと共に今後の活動に向け、訪問調査の協力を促す場
2022年12月	訪問調査のヒアリング（20名）
2023年1月	訪問調査のヒアリング（20名）
2023年2月	訪問調査のヒアリング（20名）
2023年3月	訪問調査のヒアリング（15名）、訪問調査現地フォロー（2団体）
来年度事業 2023年4月	訪問調査現地フォロー（4団体）
2023年5月	訪問調査現地フォロー（4団体）
2023年6月	訪問調査のヒアリング分析作業（設問票作成、集計、分析、まとめ）

2023年7月	訪問調査のヒアリング分析作業（設問票作成、集計、分析、まとめ）　、第2回ネットワーク会議の準備・周知、調査報告書郵送作業
2023年8月	全国支援団体による第２回ネットワーク会議（外部サービス：ZOOM）※調査報告、共有の場
2023年9月	本助成金報告書作成

Ⓑ　ラッシュチャリティポット復興支援活動助成金に応募予定である。

2021年度も応募し、採択され助成金を使わせていただいている助成金である。今年度は、Yahoo基金の助成金と連動させ、補完できるように、セミナー事業とフォーラム事業をラッシュの助成金で実施したいと考えている。

２．主な事業内容

①　つながる：全国の支援団体をつなぐ場づくり　～ネットワーク事業～　　➡YAHOO基金

・ネットワーク会議の実施（全2回予定　※第2回目は、2023年度実施予定）

参加数：各20団体程度

対象：ヒラエス会員、広域避難者支援団体、実施地域の行政や社協、その他

内容：　避難者支援の関する学びと共に今後の活動に向け、質的調査の協力を促す場

実施時期：2022年11月

対象地域：全国　　オンライン開催

②　つながる：当事者性をもった安全な語り合いの場づくり　～ワークショップ事業～

●会員拡充

当団体の基盤となる会員に向けて、ホームページを拡充させ、オンライン化の交流を図ることは重要だと捉えています。また、ネットワーク会議などの事業やそれぞれの会員による口コミなどによって新規会員の拡充を図ります。加えて会員メリットと観点を充実させるために、会員向けのサービス（専用ページ）を構築します。例：会員専用のページからこれまでの事業の映像が見られるなどまた、全国の広域避難者支援団体へ積極的に事業参画を呼びかけ、会員になっていただきます。その他、広域避難者支援に関心のある団体等にも事業への参加を促すことにより会員の拡充を図ります。以上のことから今後の避難者支援活動に取り組むさらなる全国的な支援ネットワーク体制を強化します。

予定：会員数を 60 名程度まで向上させる。

●ヒラエスミーティング・ヒラエスサロンの実施

対象：ヒラエス会員

内容：ヒラエスコミュニティは当会員の参画を図り、会員間の交流の事業

ⅰ会員ミーティング（全2回予定）

議決権のある正会員を対象にした会議となります。当団体の事業内容などについて話し合います。

ⅱ交流サロン（毎月開催予定）

オンラインによる会員向けの交流会です。正会員、メンバー会員、賛助会員が参加でき、交流を深める内容です。

③ まなぶ：当事者・支援者が共に学び合う場づくり ～セミナー事業～ ➡ラッシュ

・会員向けセミナー（全1回予定）

会員ミーティングによって提起された問題について、専門家をお呼びしてセミナーを開催します。この内容については、録画したものをHP上の会員専用ページなどに活用する予定です。参加1団体につき、会員の場合は1,000円（一名）、非会員の場合は5,000円（一名）を徴収します。

・講師派遣事業（依頼による）

当団体でこれまで避難当事者でありながら支援活動をしてきた内容や避難当事者の本音などをテーマとした研修に講師派遣をします。当団体に依頼があり、実施できる内容と判断した場合は引き受けます。

④ つたえる：経験をちからへと転化するために伝える場づくり ～フォーラム事業～ ➡ラッシュ

・フォーラムの開催（全1回予定）

参加数：50名程度（オンライン開催予定）

対象：広域避難当事者、支援者を含めた一般

内容：今年度の事業である質的調査ヒアリングの途中経過を交えながら、調査協力を担ってくれている専門家からの話を中心に広域避難者の事態についてのフォーラムを開催します。

■実施スケジュール

2023年2月を予定

■実施場所

オンライン（公開）

■対象者など

広域避難当事者、支援者を含めた一般

■参加費

会員、避難当事者は無料

※財源確保

311に即した助成金申請できるものは大変少ない状況となっています。そこで、自主財源の確保として会員を充実させて会費の向上、各事業の有料化、出前講座のような講演活動について積極的に取り組み、安定的な財源確保を構築します。

３．実施スケジュール　　※地域の団体との情報共有、連携、協力を要請し事業を行います。

	①ネットワーク事業	②ワークショップ事業	③セミナー事業	④フォーラム事業	その他の事業
4 月		・サロンの実施	・講師派遣		・企画 ・助成金申請書作成
5 月		・サロンの実施	・講師派遣		・企画 ・助成金申請書作成 ・総会
6 月		・サロンの実施 ・ミーティングの開催	・講師派遣		
7 月		・サロンの実施	・セミナー事業準備と告知 ・講師派遣		
8 月		・サロンの実施	・セミナー実施 ・講師派遣		
9 月		・サロンの実施 ・ミーティングの開催	・講師派遣		
10 月	・ネットワーク事業準備と告知		・講師派遣	・フォーラムの企画	訪問調査のヒアリング設問票作成
11 月	・ネットワーク会議の開催（学びと共に今後の活動に向け、訪問調査の協力を促す場）	・サロンの実施	・講師派遣	・フォーラムの企画	
12 月		・サロンの実施(忘年会)	・講師派遣	・フォーラムの準備と告知	訪問調査のヒアリング（20 名）
1 月		・サロンの実施	・講師派遣	・フォーラムの準備と告知	訪問調査のヒアリング（20 名）
2 月		・サロンの実施	・講師派遣 ・報告書作成	・フォーラム開催	訪問調査のヒアリング（20 名）
3 月		・サロンの実施	・講師派遣		訪問調査のヒアリング（15 名）、訪問調査現地フォロー（2 団体）

2023年度 4月		・サロンの実施	・講師派遣		訪問調査現地フォロー（4 団体）
5 月		・サロンの実施	・講師派遣		訪問調査現地フォロー（4 団体）
6 月		・サロンの実施 ・ミーティングの開催	・講師派遣		訪問調査のヒアリング分析作業（設問票作成、集計、分析、まとめ）
7 月	・ネットワーク事業準備と告知	・サロンの実施	・講師派遣		訪問調査のヒアリング分析作業（設問票作成、集計、分析、まとめ）、調査報告書郵送作業
8 月	ネットワーク会議の開催（調査報告、共有の場）	・サロンの実施	・講師派遣		
9 月		・サロンの実施 ・ミーティングの開催	・講師派遣		助成金報告書作成

４．実施体制

氏名	所属／肩書	役割
市村　高志	ヒラエス共同代表	組織運営全般
桜井　野亜	ヒラエス共同代表	組織運営全般
澤上　幸子	ヒラエス共同代表/会計	組織運営全般、会計
服部　育代	ヒラエス共同代表	組織運営全般
藤本　昭則	ヒラエス共同代表	組織運営全般
長尾　紘子	ヒラエス事務局	事務局・管理担当
長濱　正	長濱正税理士事務所/監査	事業及び会計の監査

（法第10条第１項第８号「活動予算書」）

２）2022 年度　予算について

２０２２年度 活動予算書

2022 年４月１日から 2023 年３月 31 日まで

３１１当事者ネットワーク ヒラエス

科目	金額	（単位：円）	
Ⅰ　経常収益			
１．受取会費			
正会員年会費収入（12 人）	36,000		
正会員団体年会費収入（10 団体）	30,000		
賛助会員個人年会費収入（9 人）	27,000		
賛助会員団体年会費収入（3 団体）	30,000	123,000	
２．受取寄附金			
受取寄附金	10,000		
施設等受入評価益	0	10,000	
３．受取助成金等			
助成金（YAHOO 基金）	3,000,000		
助成金（ラッシュジャパン）	200,000	3,200,000	
４．事業収益			
ネットワーク会議参加費	20,000		
フォーラム参加費	0		
内部会員向けセミナーの参加費	30,000		
講師派遣事業	30,000		
その他目的を達成するために必要な事業	0	80,000	
５．その他収益			
受取利息	30		
雑収益	0	30	
経常収益計			3,413,030
Ⅱ　経常費用			
事業費			
（１）人件費			
給料手当	960,000		
人件費計		960,000	
（２）その他経費			
会議費	0		
旅費交通費	543,100		
環境整備費	40,000		
謝金	1,644,000		
印刷費	64,000		
消耗品費	22,000		
備品	0		

	通信費	133,055		
	業務委託費	0		
	その他目的を達成するために必要な経費	0		
	一般管理費	0		
	その他経費計	2,446,155		
	事業費計		3,406,155	
	管理費			
	（１）人件費	0		
	役員報酬	0		
	事務局人件費	0		
	人件費計	0		
	（２）その他経費			
	会議費	0		
	通信費	6,875		
	その他経費計	6,875		
	管理費計		6,875	
	経常費用計			3,413,030
	当期経常増減額			0
Ⅲ	経常外収益			
	固定資産売却益		0	
	経常外収益計			0
Ⅳ	経常外費用			
	過年度損益修正損		0	
	経常外費用計			0
	当期正味財産増減額			0
	前期繰越正味財産額			1,136,953
	次期繰越正味財産額			1,136,953

2022 年度　事業別予算

（単位：円）

事業名	①ネットワーク事業	②サロン事業	③セミナー事業	④フォーラム事業	その他の事業	管理部門	合計
１．受取会費	0	0	0	0	116,125	6,875	123,000
２．受取寄附金	0	0	0	0	10,000	0	10,000
３．受取助成金等	40,000	0	0	200,000	2,960,000	0	3,200,000
４．事業収益	20,000	0	60,000	0	0	0	80,000
５．その他収益	0	0	0	0	30	0	30
経常収益計	60,000	0	60,000	200,000	3,086,155	6,875	3,413,030
（１）人件費							
給料手当	0	0	0	0	960,000	0	960,000
人件費計	0	0	0	0	960,000	0	960,000
（２）その他経費							
会議費	0	0	0	0	0	0	0
旅費交通費	0	0	0	0	543,100	0	543,100
謝金	60,000	0	30,000	90,000	1,464,000	0	1,644,000
環境整備費	0	0	10,000	30,000	0	0	40,000
印刷製本費	0	0	0	0	64,000	0	64,000
業務委託費	0	0	0	0	0	0	0
支払利息	0	0	0	0	0	0	0
消耗品費	0	0	5,000	5,000	12,000	0	22,000
備品購入費	0	0	0	0	0	0	0
図書費	0	0	0	0	0	0	0
通信費	0	0	15,000	15,000	103,055	6,875	139,930
予備費	0	0	0	0	0	0	0
その他目的を達成するために必要な事業	0	0	0	0	0	0	0
その他経費計	60,000	0	60,000	140,000	2,186,155	6,875	2,453,030
経常費用計	60,000	0	60,000	140,000	3,146,155	6,875	3,413,030

収入 3,413,030 円−経費 3,413,030 円＋前期繰越分 1,136,953 円＝1,136,953 円

次年度繰越　1,136,953 円